

令和6年度第2回石川県農林水産研究評価委員会 事前評価結果

日時：令和6年10月24日（木）13:30～15:30
場所：農業試験場 第1会議室

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント	委員コメントに対する研究機関の回答・考え方等
1	農林総合研究センター農業試験場	水稲経営体の複合化に向けた花き栽培技術開発	R7～R9	水稲経営体の所得確保に向け、花き生産による経営複合化を図るため、水稲経営体に適する花き品目（エアリーフローラ、切り花ハボタン、リンドウ）の高品質安定生産技術を開発する。 【エアリーフローラ】八重品種の品質向上技術の確立 【切り花ハボタン】着色不良対策技術の確立 【リンドウ】本県に適した栽培技術の確立	B	①フリージアについて、有利販売等のマーケティングや商流から見直すべきと感じた。多色のアイデンティティは、マーケットに響いておらず、八重を振興することも良いが、産地として何で勝負するのかを模索している。例えば、黄色に絞って生産振興するとか戦略が必要。 ②生産者の確保と持続性に期待しています ③品質の向上に期待します ④食料自給率の向上が叫ばれている中、水稲を諦める方針は正しいのか ⑤ルビーロマン、ひやくまん穀、エアリーフローラに次ぐ新しい産品は ⑥他県産と比較し、石川県産の方が良いと感じられるよう研究・指導していただきたい ⑦予算が高い気がするが、研究に見合った額なのか ⑧経営的な収支についてももう少し検討されたい ⑨農家の収益増につながるよう検討してほしい	①③⑥フリージアについては、市場関係者や需要者、ブランディング専門家等の意見を参考に花の色やボリューム感等のマーケットニーズを随時把握し、品質の向上など他県産との差別化を強化するための研究・指導に努めてまいります。 ②④米の需要減少が続く中、本県では需要に応じた水稲の生産を維持しつつ、水稲経営体の所得確保を目指し、園芸作物への作付転換（水田園芸）を推進しているところである。現在、導入品目は野菜が中心となっているが、本研究において花き生産について検討し、経営体の農地・労力に応じた園芸品目導入の選択肢を拡大したいと考えている。 ⑤本県の気候・風土に適した水稲や園芸品目の品種開発を継続して取り組んでいる。 ⑦種苗費や資材費等必要経費を精査し適正と判断しているが、効率化の余地がある箇所については引き続き検討を進めたい。 ⑧⑨水稲と花の複合経営による収支改善に向け、収益モデルのシミュレーションや生産性の向上を進めて経営モデルを確立するとともに、品質向上や生産の安定の技術確立に注力してまいります。
2	農林総合研究センター林業試験場	県産ヒノキ材の材質特性評価	R7～R9	利用可能な林齢となりつつある県産ヒノキの材質特性が未知であることから、 ①集成材・CLTの材料（ラミナ）としての性能評価 ②無垢材の柱・土台としての性能評価 を行い、詳細なデータを整備する。	B	①先月、ISICOで加賀木材さんの商品開発のプレゼンをたまたま見たが、とても可能性があると思った。 ②県産ヒノキ活用の有効性を環境的側面も交えて特徴が出せると良い ③特性評価は販売・流通のために重要なことだと思う ④伐採から最終利用まで流れが確立することを願います ⑤色々なデータを採られることを期待します ⑥ヒノキの普及につながることを望みます ⑦県産ヒノキの優れた点はなにか ⑧単なる評価ではなく、市場価値を高めるための方向性を出すべき ⑨強度試験の期待値が得られなかったときの対応はどうか ⑩強度以外にも、ヒノキの香りの持続性などを検討してはどうか ⑪他県の事例を参考にすること ⑫中能登地区ではヒノキの資源量が多いにもかかわらず、丸太が出材されていない現状には理由があるはず ⑬県外材に対抗できるのか	⑦⑧⑩⑬ヒノキは温暖で積雪の少ない気候を好む樹種で、本県より北方の日本海側にはほぼ生育していない。そのため本県産ヒノキは本県を含めこれら地域への流通コストの面で、西日本の主要産地より有利と考えられる。また、材質面では、寒冷な気候でゆっくり成長することで材の密度が高まり、強度的性能の中でも密度との相関が高い特性値については高強度が期待できる。他県の先行事例も踏まえつつ県産ヒノキの特長を評価していく。 ⑨ヒノキの供給先については、構造用材としての需要も高いが内装・家具材等としての需要も高いことから、強度性能に不備のある材料についてはその可能性を提示していく。 ⑩現在能登ヒバを使用した空間の空気質変化等を調査中であるが、まずその知見を見て、ヒノキでの検討可能性を考えたい。 ⑫県内でのヒノキ造林はスギやアテ（能登ヒバ）に比べて歴史が浅く、多くのヒノキはまだ構造用材として利用できる直径にまで成長していなかったことが、これまで出材量の少なかった要因であると考えられる。

※A：優先的に実施することが適当、B：実施することが適当、C：計画等を改善して実施することが適当、D：実施の必要性が低い、E：実施の必要性は認められない